

SPIO Award

SPIO Award は、毎年 Auris Nasus Larynx(ANL) に掲載された原著論文の中より、優秀原著論文 1 篇に対し、その著者に賞状と賞金 (5,000 ドル) を贈呈しています。ただし、筆頭著者は 45 歳以下。また、受賞者には日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会において講演の場が与えられます。これは平成 13 年から始まり今までに 8 名の受賞者を選出しました。

平成 22 年度は 19 篇の中から対象となる 3 篇を審査した結果、国立がんセンター中央病院の吉本世一氏が選ばれました。

Seiichi Yoshimoto : Analysis of 59 cases with free flap thrombosis after reconstructive surgery for head and neck cancer, Auris Nasus Larynx Vol.37, No.2, 205-211, 2010

平成 23 年度におきましても多くの優れた論文が日本国内だけでなく海外からも ANL 誌に寄せられることを期待しています。

平成10年度研究助成金受領者の近況 (ポーランドより) 昭和大学留学生 Elzbieta Tryka, M.D.

After my coming back to Poland I have continued working at ENT Department of Medical University in Lublin. I had no possibility to continue this immunological research in Poland because I have found no funds for it. It wasn't also the field of interest of Head of my ENT Department. Our main scientific program is connected with cancer of the head and neck, especially of the nose, sinuses and orbits, pharynx and larynx. I undertook the research together with scientific team of Clinical Immunology Department of my University and it resulted in some papers in Polish and European medical journals. Now the subject of my interest is Sleep Apnea Syndrom, diagnosis and complications. I also work as academic and lecturer. I organize and perform the students training on Medical, Dentistry and Nursing Department. Our Medical University admits and educates quite great group of foreign students from USA, Europe (Scandinavia) and China. I had no another opportunity to participate in scientific congresses abroad lately. I cooperate with different departments of my Medical University (Immunology, Microbiology, Pathomorphology) Polytechnics and this cooperation is of great mutual interest and benefit, as in Tokyo.

平成 22 年度戸田 SPIO 奨学金受領者 (イタリアより) 関西医科大学 小西 将矢 氏

2010 年 9 月から 1 年間の予定で、Italia の Piacenza にある Private Surgery Center の Mario Sanna 先生の下で fellow として臨床留学させていただいております。此の度は、SPIO から留学助成金を頂きまして誠に有難うございました。こちらでは、無給医員として働いているため、大変感謝しております。

当施設は耳鼻科常勤医 9 人の他、fellow 8 人の体制で大変活動的な耳鼻医療を行っております。Gruppo Otologico (耳グループ) の名の通り、耳に関係するほぼ全ての疾患を取り扱っております。特に聴神経腫瘍の症例 (手術) は年間 200 例をやや上回る程で、症状、程度に応じて最良の方法を行っております。聴神経腫瘍に関しては、日本では残念ながら脳外科医による脳外科的アプローチが主流であり、耳鼻科的アプローチ、もしくはそのコンビネーションを含めた最良の方法が選択されているケースはごくわずかです。Skull base 領域の手術では、脳外科的選択アプローチよりも耳鼻科的アプローチが優れている点が多々あるとの事ですので、その辺りも踏まえ勉強させて頂ければと思っております。また、Cochlea Implantation 不成功、不適応例に対しても積極的に ABI (Auditory Brainstem Implantation) を施行しており、良好な成績を得、患者様の満足度も大変高いのには驚いております。

当施設は、ピアチェンツァという田舎町にあります。患者さんが国境を越えて集まってきており、医が法を超えて存在している感じがします。設備/医療体制に関しては設立当初からあまり変わっていないとのことなので、概して 30 年近く前のものだと思いますが、現在も質の高い医療を提供し続けています。仕事道具は使い慣れているのが一番、職場はフットワークが軽いのが一番という職人気質的なものを感じると同時に、古き良き日本の医療を垣間見ている気がします。

残された時間はそれほど長くはないですが、貴重な体験をさせていただいていることを忘れることなく、かつイタリアの時間の流れを楽しみつつ fellow 生活を引き続き送っていきたく思います。尚、本留学にあたりアドバイス・サポートしていただいた数々の先駆者・諸先輩方にこの場を借りて改めて感謝の意を表します。

